

2019年3月期 第1四半期の業績（連結）について

（1）売上収益

当第1四半期の売上収益は、前年同期比103億円（17.0%）増加の712億円となりました。

売上収益の内訳といたしましては、製品商品売上は薬価改定の影響を受けたものの抗悪性腫瘍剤「オプジーボ点滴静注」を中心に堅調に推移し、前年同期比54億円（11.1%）増の539億円となり、「ロイヤルティ・その他の収益」は前年同期比49億円（39.6%）増の174億円となりました。

「ロイヤルティ・その他の収益」には、ブリストル・マイヤーズ スクイブ社およびメルク社からのオプジーボに係るロイヤルティ収入やオレンシア点滴静注のコ・プロフィーなどが含まれており、ブリストル・マイヤーズ スクイブ社からのオプジーボのロイヤルティ収入は前年同期比45億円増の134億円、メルク社からのロイヤルティ収入が前年同期比15億円増の26億円となっております。

抗悪性腫瘍剤「オプジーボ点滴静注」は、一昨年度に効能追加された腎細胞がん、頭頸部がん、昨年度に効能追加された胃がん等への使用が拡大したことにより、前年同期比30億円（15.0%）増の228億円となりました。

その他の主要新製品では、2型糖尿病治療剤「グラクティブ錠」が前年同期比1億円増の71億円、関節リウマチ治療剤「オレンシア皮下注」が10億円増の43億円、2型糖尿病治療剤「フォシーガ錠」が10億円増の36億円、抗悪性腫瘍剤投与に伴う悪心・嘔吐治療剤「イメンドカプセル」「プロイメンド点滴静注用」が合わせて2億円増の27億円、アルツハイマー型認知症治療剤「リバスタッチパッチ」が1億円増の23億円、多発性骨髄腫治療剤「カイプロリス点滴静注用」が1億円増の13億円、血液透析下の二次性副甲状腺機能亢進症治療剤「パーサビブ静注透析用」が7億円増の13億円と堅調に推移いたしました。一方で、オノアクトは約25%の薬価引下げの影響もあり4億円減の11億円、ステーブラ錠は5.5%の薬価引き下げの影響があり1億円減の10億円となりました。

長期収載品は薬価改定および後発品使用促進策の影響を受け、オパルモン錠、オノカプセル、オノンドライシロップともに大幅減収となっております。

(2) 営業利益

営業利益は、前年同期比 37 億円 (26.0%) 増加の 180 億円となりました。

費用面では、売上原価は前年同期比 50 億円 (33.1%) 増加の 201 億円となりました。研究開発費は、「オブジーボ点滴静注」関連費用が増加したことにより、前年同期比 8 億円 (5.2%) 増加の 157 億円となり、販売費及び一般管理費（研究開発費を除く）は、「オブジーボ点滴静注」や「フォシーガ錠」等の主要新製品に係る営業経費が増加したことにより、前年同期比 8 億円 (4.8%) 増加の 170 億円となりました。

売上収益が IFRS 第 15 号適用の影響も含め 103 億円の増収となったことにより、売上原価、研究開発費、販売費及び一般管理費が増加したものの、営業利益は前年同期比 37 億円の増加となっております。

(3) 税引前四半期利益

金融収益、費用が純額で 1 億円減の 14 億円となったことから税引前四半期利益は前年同期比 36 億円増の 194 億円となりました。

(4) 親会社所有者に帰属する四半期利益

親会社の所有者に帰属する四半期利益は、税引前四半期利益の増加に伴い、前年同期比 35 億円 (29.4%) 増加の 152 億円となりました。

最後に、会計方針の変更について触れさせていただきます。当社グループは、当第 1 四半期連結会計期間より、IFRS 第 15 号を適用いたしております。その連結損益計算書への影響は、従前の会計基準を適用した場合に比べ、売上収益が 25 億円、売上原価が 25 億円、営業利益が 0.1 億円、税引前四半期利益が 0.1 億円それぞれ増加しております。

なお、第 2 四半期累計期間、通期の連結業績予想につきましては、5 月 10 日に公表いたしました業績予想からの修正はございません。